小郡市立小郡中学校　　令和２年６月１２日

小郡中学校だより

第９９号

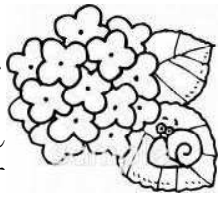
校長　船 津 聡 哉

学校教育目標　～ 志をもって自ら学び考え、心豊かにたくましく生きる生徒の育成 ～

ほんの一秒でできる挨拶や言葉かけで心と心をつないでいきませんか

【給食時間の様子】

６月１日(月)から一斉授業そして給食や部活動も始まり、生徒のみなさんは新しい環境に慣れるための緊張感が強かったのではないでしょうか。これから先もまだまだ不安な状況が続き、普段の学校生活とは全く違う生活が予想されます。また、張っていた気がふとした拍子にゆるみ、疲れがどっと出て体調を崩すことがあるかもしれません。感染予防はもちろん、食事・運動・睡眠などの生活環境を整え、しっかり自分と向き合いながら心と体の健康管理には気を遣っていきたいものです。なお、ストレスや不安・悩みがあれば遠慮なく、担任等に伝えていただき、不安解消に努めていただきたいと思っています。
学校としても生徒のみなさんの安心安全を第一義に考え、可能な限りの取組と配慮をしていきたいと思っておりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



さて、季節が春から夏へと移ろうとしている今、日本各地は前線の停滞により雨の日が多く、この時期はちょうど梅の実が黄熟する頃と重なるため「梅雨」と呼ばれています。中国の長江流域と朝鮮半島南部、それと日本だけに見られる現象だそうです。北海道にははっきりとした梅雨がないとも言われていますが、沖縄から次第に梅雨前線が北上し梅雨明けを迎えると本格的な夏がやってきます。

長い雨が続くと気持ちも沈みがちになることも多いもので、とくに中学生の皆さんたちにとってもすっきりとしない季節なのではないでしょうか。ただ、ちょっとした心がけひとつで、穏やかな気持ちになれたり、居心地のよい学校生活になったりします。

そこで今号では、『一秒の言葉』という詩をみなさんに紹介します。これは、小泉吉宏（こいずみよしひろ）さんという人が書いた詩で、もしかしたら道徳の時間に学習したり、どこかで耳にしたことがある人もいるかもしれませんが、この詩を読むとなんだか心が落ち着きます。

『一秒の言葉』　小泉　吉宏

『はじめまして』
この　一秒ほどの短い言葉に、
一生のときめきを感じることがある

『ありがとう』
この　一秒ほどの言葉に、
人の優しさを知ることがある

『がんばって』
この　一秒ほどの言葉で、
勇気が蘇ってくることがある

『おめでとう』
この　一秒ほどの言葉で、
幸せに溢れることがある

『ごめんなさい』
この　一秒ほどの言葉に、
人の弱さを見ることがある

『さようなら』
この　一秒ほどの言葉が、
一生の別れになる時がある

一秒に喜び、一秒に泣く
一生懸命…一秒

小泉吉宏さんは漫画家ですが、漫画家としては珍しくコピーライターの経験もあります。この詩は１９８５年(昭和６０)の大晦日(１２月３１日)に一度だけテレビのコマーシャルで放送されました。その放送がたくさんの人の感動をよび、その後、この詩は、小学校の道徳の副読本に載ったり、結婚式のスピーチに使われたりと有名になったのです。

みなさんにとって、一秒の言葉とは何でしょうか。
人は、たった一秒の言葉で、うれしい気持ちになったり、励まされたり、時には傷ついたりもします。一秒たらずの言葉が使い方次第で「宝物」や「花束」になることもあれば、人と人との心をつなぐこともあります。ただ、使い方によっては、「ナイフ」のように人を傷つけることもあるのです。イライラも多くなる今の生活ですが、今こそ、言葉を大切にできているのかを問い直したいものです。言葉は感情を引き出します。言葉は自分自身をつくりあげます。
ほんの一秒でできる挨拶や言葉かけで周りの人と心と心をつないでいきませんか。

一心同体　～自分と仲間と向き合って～　…本年度の生徒会活動本格的始動

【各教室での生徒総会となりました】

６月11日(木)５限目に議案書が配布され、本年度の生徒会スローガン、無言清掃の取組、学習委員会の提出物強化週間の取組の説明・提案が各教室で行われました。本年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために、一堂に会しての生徒総会の開催ができず、生徒会拡大執行部のみなさんが各教室に入っての生徒総会となりましたが、各教室では生徒のみなさんの真剣な表情が見られました。

生徒会活動は、生徒のみなさん一人一人の学校生活をよりよく充実したものにするための活動です。ですから、大切なのは生徒会活動は生徒会執行部や拡大執行部だけの活動ではないということです。生徒のみなさんの応援なしでは進まないし、生徒のみなさんの生徒会活動に対する理解と協力が活動を活発にさせるのです。全校生徒３６５名の一人一人はやるべき役割があるわけですから、その責任を果たしていかなければなりません。学校という場で、社会で生きる本物の力を身につけたいと願うならば、やるべきことや任された仕事は、「大変だから嫌だ」ではなく、「まずやってみよう」ではないでしょうか。「まずやってみよう」の精神は、小郡中生徒会の活性化につながることはもちろん、将来のみなさんのプラスに働くのです。生徒のみなさん一人一人の積極的な活動を期待しています。

本年度の生徒会スローガンは**【一心同体　～自分と仲間と向き合って～】**です。自分の想いそして仲間の想いに向き合いながら、質の高い信頼関係を築いていこうという思いが込められています。また、これまで先輩たちがつくりあげてきた伝統や取組をしっかり引継ぎ、さらに仲間づくりを強固なものにしていこうという熱意が感じられる議案書になっています。取り組もうと決めたならば、中途半端な取組ではなく、とことんやる…さらに小郡中の伝統の発展を願っています。

生徒会執行部、拡大執行部の皆さん、春休みから生徒総会の準備、本当にお疲れさまでした。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために計画通りに進まなかったと思いますが、いよいよ生徒会活動が本格的に始動します。スローガン達成に向かうための姿勢は、常に自分たちの生活を振り返り、成果と課題を明確にして改善・実行していくこと…この繰り返しです。皆さんの努力に期待しています。

スローガン達成のための三つの柱〈生徒総会議案書から抜粋〉

１「広げる挨拶」…相手の顔を見てあいさつすることで、相手の気持ちや体調を感じとることができます。あいさつは、相手を思いやることや仲間の小さな変化に気づく第一歩になります。

２「気配り清掃」…気づきの心、がまんする心、思いやりの心、感謝する心の４つの心を自ら意識し、『無言清掃』に取り組みます。周りに気を配り、「自分からやろう」という清掃にします。

３「伝える合唱」…「合唱活動を通して、自分の想いや考えを素直に仲間に伝える」「合唱は仲間づくりを合言葉にした小郡中の伝統の継続」「仲間だけでなく多く人に想いを伝える」という3つの意味を込めています。

保護者のみなさまへ

今号の冒頭にも述べましたが、６月１日(月)より一斉登校となり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に努めながら教育活動を進めているところです。教科の授業や給食時間はもちろん､帰りの会終了後は全職員で教室やトイレの消毒を行うなど感染症対策を講じています。今後も感染拡大防止には気を遣っていきますが、気になることがありましたら遠慮なくお伝えください。なお、毎朝自宅での検温はお世話をかけておりますが、特に休み明け(月曜日)の検温忘れが多いようです。ご家庭での毎朝の体調チェックをよろしくお願いいたします。

この新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するために、ＰＴＡ活動の自粛や中体連夏季大会の中止などが決定し、その連絡はすでに文書を配布しております。感染症対策に関しての文書配布物も多くなりますが、なかなか配布物を渡していないお子様も多く、問合せも多くなっております。緊急連絡に関しては、安心安全メールや小郡中学校ホームページで連絡していきますが、ぜひ、学校からの配布物チェックも毎日お願いいたします。お願いばかりになり申し訳ありませんが、今後ともご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

小郡市立小郡中学校　　令和２年６月１５日

小郡中学校だより

祝第１００号

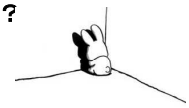
校長　船 津 聡 哉

学校教育目標　～ 志をもって自ら学び考え、心豊かにたくましく生きる生徒の育成 ～

ネガティブな気持ちを切りかえる方法

『絶望のとなりに』　やなせ　たかし

絶望のとなりに
だれかが　そっと腰かけた
絶望は　となりの人に聞いた
あなたは　いったい　誰ですか？
となりの人は　ほほえんだ
私の名前は　希望です



この『小郡中学校だより』も100号となりました。私(船津)は本校校長となって４年目ですが、100枚目の学校だよりです。学級担任していた時には学級だよりを発行していたのですが、100号では私の好きな詩を伝えていたことを思い出します。今号では、100号を記念して、私の好きな詩を伝えたいと思います。

私は、やなせたかしさんの詩が好きで、特にこの詩は悩んだとき、苦しいとき、どうしようもないとき…に読むとなぜか元気が出たものです。次にはきっとよいことがあると元気づけられたものです。毎日を過ごしているとうまくいかないことが多いものです。そんなとき、みなさんはどのようにして前向きな気持ちに切りかえますか。感情は思考より強いと言われていますので、なかなか気持ちの切りかえは難しいものです。特に、気持ちがネガティブになっているときは、過去の失敗に意識が向いているか、まだ起こっていない未来に対して不安を抱くことが多いと言われています。ただ、気持ちを切りかえるのが上手な人は、「過去の失敗は変えることはできないけれど、未来になら生かすことができる。この経験を生かす方法はないか」のように考えたり、未来に対する不安には、「今、不安を抱いているけれど、何に不安を抱いているんだろう？本当にそうなる保証はあるの？」のように、不安から望ましい状態に意識を向けたりします。そして、「今できることに集中する」こと…「まぁ、このまま考えていても仕方がないから、よし、今できることをとにかくやろう」と決めて、やるべきことを当たり前にやる…すると、意識は今やるべきことに向くので、気持ちが切りかわっていくのです。ぜひ、参考にしてみてください。

部活動編制がありました

【部活動の様子】

予定より２か月遅れになりましたが、６月１２日(金)に部活動編制がありました。先日、文書でお伝えしましたが、３年生にとっては、新型コロナウイルス感染症の影響で、「中学校時代の部活動の集大成」ともいえる中体連夏季大会が残念ながら中止となりました。ただ、３年間の部活動をしめくくる試合(仮称「夏季交流戦」)が各種目ごとに検討されていますので、残りの時間を大切にして部活動に取り組んでほしいと思っています。

１年生はいよいよ部活動に取り組みますが、部活動は次の①～③が大きなねらいがあります。
①心と体の調和的発達と自分の役割を果たす　②自分のよさを伸ばし、将来の活動に生かす
③集団の大切さの自覚と対人関係の充実をめざし、つながりを深め、信頼関係を高める

また、活動や体験したことを身につけるための三つの大切なことがあります。
一つめは、その活動や体験のめあてをしっかりもつことです。「ただ何となくやってみた」「こんなことやらされた」では何も身につきません。二つめは、体の全感覚を使って「なぜだろう、どうしてだろう」と問いかけをもって考えることが大切です。自分なりの考えをもち活動や体験することで、より深く自分の力となります。三つめは、活動や体験の中で人とのかかわりを大切にすることです。一人ではできないことも力を合わせればできることがたくさんあります。力を合わせてできたことは何よりの宝となります。〈部活動も勉強も同じですね〉

目標を明確にし、先輩や友だちと協力しながら人間関係を豊かにしてたくましい体力、忍耐力をつけてほしいと願っています。

〈裏に続きます〉

※６月２０日(土)より通常の部活動となる予定です。(ただし、当面は朝練習は中止します)

部活動の確認事項(活動方針や顧問割等、詳しくは小郡中学校のホームページをご覧ください)

『スマホに関する小郡中生徒会宣言』・『携帯・スマホ等の使わせ方宣言』

臨時休校期間中に中高校生・大学生を対象としたTesTee Labの「コロナウイルスの影響調査（行動編)」(2020年4月）によると、利用・視聴が増えた媒体は「スマホ」がトップであり、中学生では、「TV」が54.8%、「雑誌・漫画・本」が18.9%、「PC」が12.7%に対して、「スマホ」は72.2%と大幅に増加しているそうです。また、利用・視聴が増えたサービス・ジャンルについては、「YouTube」が全年代で9割となり、中学生では、上位から「YouTube」(87.8%)、「SNS」(72.7%)、「ゲームアプリ」(56.7%) などとなっています。学校の臨時休校や外出自粛により動画・SNS・ゲームの時間が長くなっているという結果がでています。

現在、スマホやゲーム機等の使用時間の急激な増加で生活リズムの崩れ、昼夜逆転、さらには暴言や暴力などに悩んでいるご家族も多くなってきているというニュースもあり、ネット依存・ゲーム依存で悩むご家族の相談窓口への相談件数も全国的に多くなっているそうです。

さて、みなさんはいかがでしょうか。６月１日から一斉登校となり、生活のリズムは戻りつつありますか。本校でも先週、「携帯電話･パソコン･ゲーム機などの使い方自己診断チェックリスト」を実施しましたが、右表の通りの結果となりました。

携帯電話・パソコン・ゲーム機などの使い方自己診断チェックリスト結果
※参考：独立法人　国立病院法人　久里浜医療センター作成チェックリスト

生徒の採点結果	1年	2年	3年
【20～30点】特に問題はありません。今の調子で、インターネットなどには節度をもって活用していきましょう	66.1%	53.1%	42.6%
【40～69点】インターネットなどによって、今の生活に問題がおきる可能性があるので、あなたの生活の仕方を見直していく必要があるでしょう	33.1%	38.9%	52.1%
【70～100点】インターネットなどによって、今の生活で困難な状況がおきているようです。早めに親や先生などに相談する必要があるでしょう	0.8%	8.0%	5.3%

特に、「今の生活で困難な状況が起きている」と結果がでた生徒が、１年生0.8%、２年生8.0%、３年生5.3%となっており心配していますが、気になる生徒のみなさんには、面談等をしながら対応していきたいと思っています。ただ、本校でもSNS(ラインやインスタ等)やオンラインゲームでのトラブル、そして長時間の使用で生活リズムが崩れ、体調が優れない生徒も少なくありません。再度、**ご家庭でもお子さまと話していただき、使用ルールの確認をお願いいたします**。

小郡中学校では平成２８年(２０１６年)の４月２２日ＰＴＡ総会で『携帯・スマホ等の使わせ方』宣言を、５月２日の生徒総会では『スマホに関する小郡中生徒会宣言』を可決しております。本年度もＰＴＡ総会資料及び生徒総会議案書に掲載しており、引き続き取組をしていきますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

スマホに関する小郡中生徒会宣言

今の世の中は様々なものが発展し、豊かになりました。しかし、そのせいで人と人とのつながりは薄くなってきているように感じます。

その中でも最近特に普及しているもの、「smart phone」その名のとおり、とても賢く便利なスマホ。今ではおよそ2人に1人が所有している、というデータもあるそうです。電車に乗っている時、ふと、優先席付近に目をやると、下をむいて手すりも持たずスマホに向かっているなんていう人たちを目にしたことはありませんか。優先席付近でスマホを使うことは禁止されています。
それなのに、そんなことも気にせず平気でマナーを守っていないのです。

果たしてこれで良いのでしょうか？

これは、自分の身を危険にさらすだけでなく、他人にも迷惑がかかる行為です。それをされることで、不快な思いをする人、更には命に関わる人もいるのです。今こそ、これからの世の中を背負っていく私たちが考えていかなければなりません。しかし、「夜10時以降はスマホを使わない」などのように、様々なことを制限して守ろうとしても、私たちが中学校を卒業すれば制限から解放され、それでは意味がなくなってしまいます。

そこで、私たちは細かいルールではなく、自分の人権、そして他人の人権を尊重するための将来大人になっても使える、一貫したスマホについてのルールをみなさんに3つ提案します。

①絶対に相手を傷つけるようなことに使わない
②大切なことは文字ではなく、相手に直接会って伝える
③家での使用については、家族と必ず相談して約束事を決める

これらは当たり前のことであり、人として守らなければいけないことです。これを機に、もう一度自分のスマホの使い方を見直し、まずはこの3つをしっかり守っていきましょう。

2016(平成28)年5月2日　小郡中学校生徒総会により可決

「携帯･スマホ等の使わせ方」宣言

現在、小中高生の情報ツールは、スマートフォンに移り、子ども達の間では、SNS等を主としたトークツールが電話機能を上回る現状があります。
これらのトークツールにはまって、「睡眠不足」「誤解による人間関係の悪化」「インターネット上におけるいじめ」「個人情報の流出」などトラブルが続出しているのが現実です。
また、生活面だけでなく、学習習慣の乱れや携帯･スマホ関わっての犯罪被害は増加の一途です。

このような社会情勢の中、携帯･スマホ時代の脅威に対する予防策や対応策を考えることは、喫緊の課題であります。

私たちは、ここに決意を新たにし、子ども一人一人の学習権や生活権を守るため、次の決議事項を、家庭において親子で確認することを宣言します。

決　議

一、携帯やスマホを持たせる場合は、目的をはっきりさせます。
（契約者は保護者です。それを子どもに貸しています。）

二、家庭のルールをつくり、子ども任せにしません。
（ルールを教えることは保護者の責任です。）

三、直接会って話すこと、顔を見て話すことが大切であることを教えます。

四、ルールが守れない時やトラブルに遭った時は、保護者が一緒に考え、よい方法を見つけます。

平成二十八年四月二十二日　小郡中学校保護者教師会

※SNS(ｿｰｼｬﾙ･ﾈｯﾄﾜｰｷﾝｸﾞ･ｻｰﾋﾞｽの略)とは
LINE や Facebook、ツイッター等の、主に友人･知人とのコミュニケーションを拡げるためのサービス